



2022年度新入生オリエンテーションにて 学生スタッフが活躍しました

学生課

京都薬科大学では学生のアイデアを大学運営に活かす目的で、「学内ジョブ」という制度があります。今回は、新入生同士や上級生との繋がりを作り、少しでも早く大学生活に慣れてもらうという目的で新入生オリエンテーションサポートスタッフの学内ジョブを募集しました。



アイスブレイクの様子



司会・進行は学生が行いました

そこで集まった20名の2～5年次生が、入学式直後のアイスブレイクイベントの企画、誘導、昼休みの学生交流イベントの企画、また、新入生のパソコン等の設定サポートを行いました。学内ジョブに参加し、イベントの企画や司会を務めた学生3名の感想をここに共有させていただきます。

CONTENTS

■ 特集

薬用植物園・御陵園へのご招待 8

■ ご挨拶

就任・新任・昇任のご挨拶 3

■ お知らせ

お知らせ 2
京薬会だより 6
愛学躬行歴史資料室より 6
人事 7
Library News 11
2022年度試験日程について 15
生涯教育センターからのお知らせ 16
2023年度 京都薬科大学入学試験について（概要） 17
2023年度 大学院入学選考概要 18

■ コラム

卒業生からのメッセージ 11
学生相談室だより 22

■ 報告

2022年度新入生オリエンテーションにて
学生スタッフが活躍しました 1
薬物動態学分野の市木香名さんが守山警察署より表彰されました .. 6
English Training for Clinical Triarsを開催しました 12
海外協定校マヒドール大学とのオンライン交流を行いました 13
2021年度 授業評価集計結果の報告 14
令和4年度科学研究費助成事業 採択状況 20
2022年度入学試験結果と総括 21
受賞・掲載 23
京都薬科大学奨学寄附金芳名録 24

■ イベント

2022年度新入生向けクラブ・サークルの勧誘活動 15

■学内ジョブに参加した学生の感想

おのほら みな
3年次生 斧原 未奈

私は入学式がなくなった年に入学し、学校生活に対しての不安が大きく、そのような不安を感じて入学してくる新入生に少しでも力になりたいと思い、学内ジョブに参加しました。今年から企画を学生で考えるようになり、一から企画を考え、みんなの意見を取り入れながら一つのものを作り上げていくことは難し

く、何度も練り直したりしましたが、同学年はもちろん、他の学年の学生とも仲良くなることができ、とても良い機会でした。

また、企画の一つである昼休みの交流会においては、想像を超えた新入生が参加してくださり、他の会場も設けるなど予定外のこともありましたが、ジョブメンバーと協力し合って臨機応変に対応し、とても楽しいジョブでした。

おざわ さな
3年次生 小澤 彩奈

私は今回初めて学内ジョブに応募し、新入生のアイスブレイク企画・司会を担当しました。緊張している新入生にどうしたら楽しんでもらえるかを一から考えました。感染症対策など考えなければいけないことは山積みで大変でしたが、学生課の方々にもご協力いた

だき、当日、予想以上に盛り上がっていたので大成功だったと思います。何より、今回の活動に参加していなければ出会わなかった他の学年の子と交流できたことが嬉しいです。学校と学生が一丸となって何かを作り上げる貴重な体験が出来るので、たくさんの方に学内ジョブをおすすめしたいです。

ふきあげ ゆうだい
3年次生 吹上 雄大

私はアイスブレイク企画で司会を務めました。新入生の不安や緊張を少しでも和らげたいという思いで応募したのですが、大勢の前で司会をするのは初めてだったので、おそらく新入生よりも緊張していたと思います(笑)。企画がうまく行くか不安な部分もありましたが、アイスブレイク企画は予想以上に盛り上がり

嬉しかったです。

入学式を経て、新入生は新生活がスタートしました。大学生活は6年間と長いですが、この6年間でいろいろなことに挑戦してみたいです。長さに甘えて機会を後回しにするときっと後悔するので、是非積極的になってみて下さい。勉強や課外活動、アルバイトなど大変なこともあると思いますが、それを含めて充実した大学生活を送って欲しいと思っています。

News お知らせ

庶務課

■ 2021年度 卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士・修士）授与式

2021年度卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士・修士）授与式を、2022年3月19日（土）午前10時から創立130周年記念館で執り行いました。今年度も昨年に引き続き、参加者の人数制限、間隔を空けた座席の配置などの感染症対策を行い挙行了しました。保証人は、3つの講義室に分かれて入室のうえ、式典会場からの中継を視聴いただきました。また、式典の様子をWeb配信及びオンデマンド配信を行いました。

薬学部 薬学科350名に卒業証書・学位記（学士）、大学院 薬科学専攻博士前期課程1名に修士（薬科学）、大学院 薬科学専攻博士後期課程2名に博士（薬科学）、大学院 薬学専攻博士課程9名及び課程によらない博士（薬学）2名に博士（薬学）の学位記が、課程ごとの代表者に後藤学長より授与されました。



卒業証書・学位記授与の様子

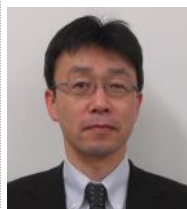
■ 2022年度 入学宣誓式

2022年度入学宣誓式を、2022年4月1日（金）午前10時から創立130周年記念館で挙行了しました。2022年度新入生数は、薬学部 薬学科383名、大学院 薬学研究科薬学専攻博士課程10名、大学院 薬学研究科薬科学専攻博士後期課程1名でした。卒業式と同様の感染症対策を行い、保護者等は講義室に分かれて式典会場からの中継を視聴いただきました。また、式典の様子をWeb配信及びオンデマンド配信を行いました。



赤路学長の式辞

就任のご挨拶



副学長・教務部長

さいとう ひろゆき
教授 斎藤 博幸

この度、本年4月1日付で副学長兼教務部長を拝命いたしました。これまでの2年間は研究科長として本学の大学院教育に携わってききましたが、今年度からは副学長兼教務部長という新たな大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。赤路新学長のご指導の下、本学の発展に微力ながら尽力する所存ですので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

本学では、建学の精神である「愛学躬行」、すなわち、自ら学び、考え、実践する、という精神に基づき、薬学のみならず多様な領域において活躍できる人材の育成を教育の目的として掲げ、2006年の薬学6年制移行後も多方面に多くの人材を輩出してきました。この2年間のコロナ禍において本学の教育環境にも大きな影響がありましたが、オンライン同時配

信型やオンデマンド型の授業を実施する環境整備も進み、感染対策と高い学修効果を両立した教育が実施されてきたと思います。

さて、近年、6年制薬学を取り巻く環境が厳しさを増す中で、本学においても社会変革に対応した新たな展開が求められています。2022年度からの第4期中期計画において、「先端的研究の展開と教育への反映」の中で「科学的思考を育む教育基盤の強化」を掲げていますが、社会の多様化と変化に対応できる力を醸成するための新たな本学独自のカリキュラム策定に向けて、教職員皆様方のお力添えを頂きながら取り組んでいく所存です。

「人材」の「材」は材料の材（マテリアル）ですが、人は材料ではないと言われます。「学生は人材である前に一人の人間であり、自由な主体として生きる一人格である」との言葉を胸に刻み、学生一人一人の人格と向き合える教員でありたいと思っています。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



研究科長

さかいだ としゆき
教授 栄田 敏之

この度、本年4月1日付で研究科長を拝命いたしました。私は、後藤前学長、赤路学長のご指導の下、2016年より2年間、進路支援部長を、2018年より4年間、教務部長を務めさせていただき、本学業務に携わってまいりました。前任の斎藤研究科長から大役を引継ぐことになり身の引き締まる思いですが、本学の職員の方々とともにその役目を果たす所存です。何卒どうぞよろしくお願いいたします。

さて、皆様ご承知のとおり、本学は、第4期中期計画にて、先端的研究の展開と教育への反映、医療界で活躍できる人材の育成、大学運営基盤の強化を掲げています。先端的研究の展開と教育への反映においては、具体的には、高度な研究力に基づく先端的研究を推進するとともに、科学的思考力を育む教育基盤の強化を行うことを目標としています。その基盤となる施設・環境の整備を行い、一方で、学術マネジメント体制を確立することが重要であり、私は、学内外との共同研究の実施、先端的研究の

創成を介して、本学の研究活動の更なる活性化、大学院教育の更なる充実に注力したいと考えています。

ところで、本学では、大学院生の方々のみならず、学部学生の方々についても、研究活動を通じて科学的思考力を醸成してきた歴史があると認識しています。一般的に、薬系大学においては、基礎的な研究と比較して、臨床的な研究が、質的にも量的にも脆弱だとされています。学部卒業あるいは大学院修了後に医療現場で従事するか否かにかかわらず、在学中に臨床的な研究に触れることの重要性が年々高まっていることを鑑みて、臨床的な研究活動の活性化にも尽力したいと考えます。

近未来の医療の態様に関してはまだまだ推測の域を出ませんが、それがどのようなものでも、良質な医薬品・医療の提供に必要とされる素養の1つは科学的思考力だと考えます。本学の学生の方々にはその素養を身につける能力があると確信しています。近未来の医療を支える人材の育成を目指して、微力ながらも精一杯努力したいと考えています。卒業生の皆様、理事会・評議員会の先生方、そして教職員の方々におかれましては、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



学生部長

のざき あきこ
教授 野崎 亜紀子

本年4月1日付で学生部長を拝命いたしました。前任の上野嘉夫教授に続き、学生部委員会、学生課の皆さんと共に、本学に学ぶすべての方々にとって学生生活が実りあるものとなるように、そしてまた本学が更により良くあるように、役割に努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本学学生の皆さんは、医プロフェッションの一角を担うべく学びに取り組まれていることでしょう。学部、大学院での学びを修められた後、社会での活躍のあり方は様々と推察されますが、各々の場での活躍に向けた専門家としての基盤を確立することが、本学学生の皆さんに共有される目標と思われます。そのために、大学での学びには、自ら独立した姿勢（自立）と、自らを律する姿勢（自律）が求められます。これらは確かに重要です。そして同じく

らい重要なことは、困った時に困った、嬉しい時に嬉しい、そして公正でないことには公正でない、と然るべき時、然るべき相手に伝えること、また逆にそれらの言葉を受け止めることです。容易いことではないかもしれません。

本学には、学生生活上困った時に相談できる複数の場が設けられています。学生課、学生相談室は、それら複数の場の中にある、基点のひとつです。学生の皆さんにはこのことを、忘れないで頂きたい。

私が専門とする法学領域では、一人一人がその人なりの人生を送ることと社会の秩序とがどうしたら両立するのか、が課題となります。国内外に広がる社会の様々なありようの中で、倫理的、法的、社会的観点から医プロフェッションがどのような役割と責任を果たすかは、その延長線上にある重要な課題である、と私は受け止めています。

専門性の高い教育・研究を実践する京都薬科大学に学ぶ学生諸君が、本学で存分に学びの時を過ごし、社会の中で専門家として活躍できるよう、微力ながら尽力したいと思います。ご関係の皆様には、ご指導賜りたくお願い申し上げます。



進路支援部長

ながさわ かずき
教授 長澤 一樹

本年4月1日付で進路支援部長を拝命しました。学生の皆さんが真に希望する進路を実現するために、進路支援部、進路支援課の職員の方々と共に、その役目を勤めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

皆さんが本学に入学された時点において、卒業後の進路に関して何らかの希望を抱いておられたと思います。それが自身の成長と共に変化していくことは良いのですが、就職活動が厳しそうだから、入職時の待遇が良いから、といったような、あまり考慮すべきでない要因によって変化することは望ましくありません。学生の皆さんが自身の能力や適性を適切に評価し、それらを活かすことができる真の希望

に沿った進路を積極的に選択することが重要です。

薬学を取り巻く環境も社会情勢と共に大きく変化し、近い将来の社会ニーズさえ予測が困難となっているなかで、学生の皆さんがそれぞれのキャリアプランを構築することは難しいと思うかもしれません。しかし、どのような状況においても、自身の希望を叶えるために必要な能力を伸ばしていくことが、変化への対応力の醸成にも繋がり、社会から高く評価される人材となっていくと考えられます。ただし、これは自身が必要と考える能力のみを伸ばせば良いということでは決してありません。希望を叶えるためには、適切な情報に基づいて、適宜軌道修正することも必要です。本学での学修を通して修得される「研究力」は、キャリアプランを構築するために必要な情報を収集・評価・活用することにも活かされます。

進路支援部では、皆さんの研究力の向上やキャリアプランの構築に資すると考えられる情報を、適宜提供すると共に、さまざまな相談に対応する体制を整えています。皆さんが自身の真の希望を叶えられるように全力でサポートしていきます。

新任のご挨拶



基礎科学系
物理学分野

たなか けんいち
教授 田中 憲一

この度、2022年4月1日付で基礎科学系物理学分野の教授に着任いたしました。私は1997年に京都大学工学部を卒業後、2002年に同大学大学院工学研究科で博士（工学）の学位を授与されました。その後、同大学研修員、同大学研究員、広島大学原爆放射線医科学研究所助手・助教、札幌医科大学医学部・医療人育成センター講師、広島大学大学院工学研究科

准教授を経て、この度、本職を拝命いたしました。放射線物理学を基盤として、放射線の質や量の評価・制御を中心に、主に医学・工学応用分野で研究しています。特にがんの放射線治療の物理研究に力を入れています。

教育では、医学部・工学部や専門学校と、多様な場で物理を中心に行ってきました。本学でも薬学学習の基盤としての物理学教育はもちろんですが、学生の皆さんには生涯学習の姿勢や物事に興味を持つ目を持ってもらえるようお手伝いできればと思います。

浅学的身ではありますが、教育・研究・大学運営などを通じて、本学の発展に貢献できればと考えております。ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



創薬科学系
薬品製造学分野

なんぶ ひさのり
教授 南部 寿則

2022年4月1日付で、創薬科学系・薬品製造学分野の教授を拝命いたしました。私は、1999年に大阪大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科に進学し、北 泰行教授のもと2004年に博士（薬学）の学位を取得しました。その後、スイス連邦工科大学チューリヒ校化学科（Erick M. Carreira教授）にて博士研究員として従事し、2005年より北海道大学大学院薬学研究院（橋本俊一教授）で助手、助教を経て、2012年からは富山

大学大学院医学薬学研究部（薬学）（矢倉隆之教授）の准教授として着任し、有機化学の教育・研究に携わってまいりました。

これまでの研究内容は有機化学を基盤とする基礎研究が中心ですが、研究を行ううえで念頭に置いていることは、医薬品創製に役立つ実用的な合成法を開発する、ということです。これまでに得た知識と経験を活かし、本学でも創薬を指向した生物活性化合物の効率的合成法の開発を目指すとともに、本学のさらなる発展に貢献してまいりたいと思います。

また、研究を通して学生を教育し、社会で活躍できるファーマシスト・サイエンティストを育成するために尽力してまいります。皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昇任のご挨拶



事務局長

まつだ しげふみ
松田 成史

2022年4月1日付けで、事務局長を拝命いたしました。私は昨年5月に本学に参り、初めての私立薬科大学で日々勉強の中にあり、身の引き締まる思いであります。

本学ではこの4月から赤路新学長の下、第4期中期計画がスタートしました。事務局長としては、特に「大学運営基盤の強化」に取り組んでいく必要があ

ると考えており、教育・研究の活動力（パフォーマンス）を活性化させる組織体制の構築や、健全な運営体制の維持・強化を実現させてまいりたいと考えております。

なかなか終息が見えないコロナ禍という状況の中、一方では学校法人のガバナンスを強化する私立学校法改正の動きや、薬系人材養成の在り方や薬学部教育の質の保証の議論など、様々な課題が性急に進められております。

この難局に対し、教職協働による大学運営により、本学が発展し続けるように粉骨砕身努力してまいりたいと考えておりますので、ご支援、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。



事務局

事務局参事

さかぐち よしみ

庶務課長 坂口 義美

この度、2022年4月1日付けで事務局参事に昇任させていただき、引き続き庶務課長を兼務することになりました。

現職の庶務課長職は2018年4月に就任し、これまでの4年間、職員の人事・給与・勤務時間管理等を主担当とする管理部門の長として、業務を遂行してまい

りました。また、2020年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、本学に危機管理対策本部を設置し、その事務局として行政機関からの要請への対応、対応マニュアルの作成や職域接種の実施等に関わってきました。また、働き方改革による労働法規の改正の対応に当たっては、関係規則改正のための労使協議の実施等、良好な労使関係の改善・維持に努めてまいりました。

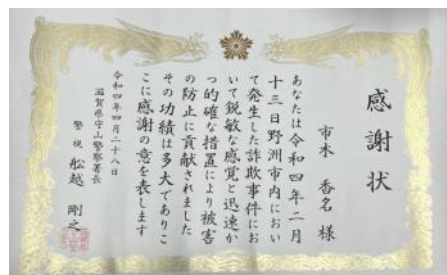
今後は、これらの所管業務に加え、事務局参事として、事務局長からの特命事項の達成に向けて邁進する所存でございますので、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

薬物動態学分野の市木香名さんが守山警察署より表彰されました

Report

いちき かな

薬物動態学分野5年次生の市木香名さんが詐欺被害の防止に貢献し、守山警察署より表彰されました。
(写真右側が市木さん)



News 京薬会だより

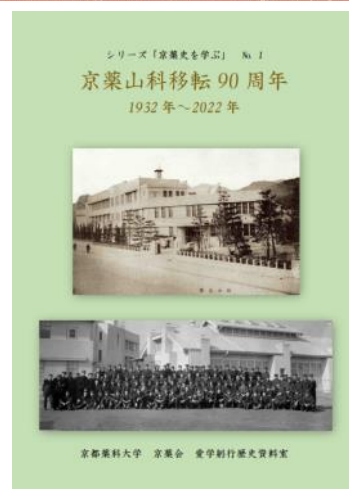
京薬会定時代議員総会を5月28日（土）に3年ぶりに大学で開催し、大学から土屋理事長、赤路学長、松田事務局長のご臨席のもと、総勢（対面、Web、委任状出席）181名の出席となりました。Withコロナのなか基本的感染防止対策に配慮し、またハイブリッド形式での開催とはいえ、代議員は対面：Web：委任状の比率が1：1：1となり、コロナの影響が如実に出ました。議事では、学生会員も京薬会事業に積極的に参画いただけるよう学生役員の設置に関する京薬会会則の改正等が承認されました。懇親会の開催はありませんでしたが久しぶりに元気な面々との再会に懐かしさを感じながら盛会なうちに閉会しました。

京薬会ホームページ <https://www.kpu-aa.com>



News 愛学躬行歴史資料室より

愛学館東側大階段下のモニターに映像を流していますように、本年は本学の前身校である京都薬学専門学校（1919〈大正8〉年開校）が、1932〈昭和7〉年に、鴨東の秋築町から現在の山科の地へ移転して、丁度90年の節目となります。京薬会では、移転の経緯、その後の山科キャンパスでの京薬の歩みをまとめた冊子『シリーズ「京薬史を学ぶ」No.1 京薬山科移転90周年1932年～2022年』（A4版、12ページ）を作成しました。写真も掲載して親しみやすいものにしています。ご希望の方には無償頒布していますので、京薬会室までお知らせください。また、図書館では、同館所蔵の山科関係図書の展示コーナーを設けていただいておりますので、あわせてご利用ください。この機会に、本学の歴史、山科の歴史や文化について理解を深めていただけたらと願っています。なお、10月末には関連の写真展などを開催する予定です。



任命

学長 赤路 健一
(2022. 04. 01～2026. 03. 31)

採用

創薬科学系薬品製造学分野 教授 南部 寿則
基礎科学系物理学分野 教授 田中 憲一
(2022. 04. 01～2032. 03. 31)

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター 特命教授 遠藤 正憲
薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター 特命教授 坂上 嘉浩
薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター 特命教授 谷口 昌彦
(以上2022. 04. 01～2023. 03. 31)

事務局実務・生涯教育課 契約専門職員 高島 一枝
(2022. 04. 01～2023. 03. 31)

昇任

事務局 局長 松田 成史
(前 事務局次長)
事務局 参事 坂口 義美
(前 事務局庶務課課長)
(以上2022. 04. 01付)

兼務

事務局 参事 坂口 義美
兼務 事務局庶務課課長
(2022. 04. 01付)

配置換

事務局学生課 事務員 林 貴志
(前 事務局教務課)
(2022. 04. 01付)

研修

事務局学生課 事務員 辻 美帆
日本私立学校振興・共済事業団
(2022. 04. 01～2023. 03. 31)

任命

副学長 薬品物理化学分野 教授 斎藤 博幸
研究科長 薬物動態学分野 教授 栄田 敏之
教務部長 薬品物理化学分野 教授 斎藤 博幸
学生部長 一般教育分野 教授 野崎亜紀子
進路支援部長 衛生化学分野 教授 長澤 一樹
図書館長 薬化学分野 教授 古田 巧
教育研究総合センター所長 学長 赤路 健一
薬学教育研究センター長
薬学教育研究センター 教授 細井 信造
臨床薬学教育研究センター長 教授 村木 優一
臨床薬剤疫学分野
情報処理教育研究センター長 教授 村木 優一
臨床薬剤疫学分野

学生実習支援センター長

情報処理教育研究センター 教授 藤原 洋一
バイオサイエンス研究センター長

薬物治療学分野 教授 加藤 伸一
創薬科学フロンティア研究センター長

薬品化学分野 教授 大石 真也
生涯教育センター長

臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一
国際交流センター長

一般教育分野 教授 佐藤 毅
国際交流センター副センター長 教授 武上 茂彦

分析薬科学系長 代謝分析学分野 教授 安井 裕之
(以上任期：2022. 04. 01～2024. 03. 31)

分野主任 薬品製造学分野 教授 南部 寿則
分野主任 物理学分野 教授 田中 憲一

(2022. 04. 01付)

再任

生命薬科学系病態生理学分野 教授 芦原 英司
創薬科学系薬品製造学分野 准教授 小島 直人
創薬科学系薬品化学分野 准教授 小林 数也
バイオサイエンス研究センター 准教授 斉藤美知子
病態薬科学系臨床薬理学分野 助教 鳥羽 裕恵
(以上任期：2022. 04. 1～2027. 03. 31)

任期満了

学長 後藤 直正
(2022. 03. 31)

退職

常任理事・事務局長 山下 馨
創薬科学系薬品製造学分野 教授 山下 正行
基礎科学系物理学分野 教授 有本 収
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 教授 楠本 正明
分析薬科学系薬品分析学分野 助教 小西 敦子
統合薬科学系 助教 西村 周泰
(以上2022. 03. 31)

契約期間満了

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 五十嵐恵美子
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 大崎 祥子
事務局施設課 契約専門職員 立藤 政信
(以上2022. 03. 31)

兼務解除

事務局教務課 事務員 林 貴志
兼務 事務局学生課
(2022. 03. 31付)

薬用植物園・御陵園へのご招待

本学薬用植物園は、「京都薬学専門学校薬草園」として、1925年に京都市山科区（当時は宇治郡山科村）御陵の地に作られました。数回の移設を経て、1968年に現在地（京都市伏見区日野林）に設置され、さらに2011年には本学グラウンド隣接地に薬用植物園御陵園が完成しました。以降、全国でも珍しい2園体制で活動しています。

世界各地に植物園はありますが、2つとして同じものではなく、それぞれのコンセプトで植物が収集され、展示植栽されています。薬用植物園と御陵園は、いずれも薬用植物を中心に植栽している点では共通しますが、それぞれの立地や広さに合わせて展示植栽方法を変えています。植物園は両園ともに、来園者がそれぞれの方法で楽しんでいただくのが一番です。皆さんはどんな風に過ごしますか。

※薬用植物園：京都市伏見区 御陵園：京都市山科区

薬用植物園 助教 月岡 淳子

Feature article.

■ 薬用植物園の楽しみ方

薬用植物園は、本校地から南に7km離れた山の中腹に位置し、約13,000㎡の敷地内には、見本園、樹木園、温室、試験圃場、管理棟があります。元々水田や畑として利用されていた土地でしたが、開園から50年以上が経ち、植栽した樹木類が生長し、生態観察もできる環境になりました。植物の観察はもちろん、森林浴、生き物探しなど様々なことが可能ですが、こんな楽しみ方はいかがでしょうか。



薬用植物園の様子

香りを楽しむ

植物園に着いたら、深呼吸をしてみましょう。1年を通して、様々な香りが楽しめます。花のそばで感じるかすかなものもあれば、植物から遠く離れた場所まで届くものもあります。1月、冷たい空気の中、ロウバイの甘い香りが広がり、2月、ウメの香りは春の訪れを感じさせます。3月、一気に植物が芽吹く頃、どこからともなく、ガスのような香りが漂ってきます。植物が発するものと知らなければ「ガス漏れ?!」と心配になるような独特の香りはヒサカキの小さな花から漂います。小さくて見逃されがちな花の存在も香りでご気付くことができます。4月下旬、暖かな風に乗ってバナナの香りが届きます。香りの正体はバナナではなく、カラタネオガタマです。5月になればスイカズラやバラの仲間、6月にはクチナシと次々に香りが変化します。インターネットや図鑑などでは美しい花の写真をみることができますが、香りを感じることはできません。香りを頼りに植物探しをしてみたいはいかがでしょうか。



スイカズラ（スイカズラ科）



クチナシ（アカネ科）



ベニバナ（キク科）

色を楽しむ

花の色を言葉で誰かに伝えようとするたびに自らの表現力の乏しさを思い知ります。1つの花でも、開花直後から徐々に色が変化し、数日で違う色になるものもあります。ベニバナは、開花直後の鮮黄色から徐々に赤味を増し、最終的には濃い紅色になります。スイカズラは、開花時には白色で、時間の経過とともに黄色に変化することから、1本の木（つる）に白色と黄色の花が咲いているように見え、別名「金銀花」とも呼ばれます。変化するのは、花ばかりではありません。葉も「緑色」という一言では表現できないほどの、多様な「緑色」があります。そして、花よりもじっくりと時間をかけて色の変化をみることができます。実際に植物を見て、自分なりに色の名前をつけてみるのも面白いでしょう。

訪問者を楽しむ

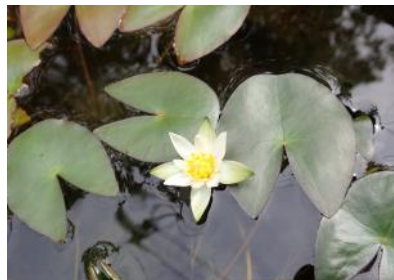
植物がある場所には、たくさんの訪問者がやってきます。鳥やウサギなどの比較的大きな訪問者もいれば、小さな虫もやってきます。ミカン科の植物に産卵するために飛来するアゲハの仲間や、アケビに発生するアケビコノハの幼虫などを見ていると、よく間違えずに植物を選ぶものだと感心します。ユリを食べて成長するユリクビナガハムシの、自らの排泄物をまとい身を隠す技には脱帽です。植物を育てる立場としては、植物を傷つける彼らは‘敵’でもあるわけですが、小動物や虫類は食害するだけではなく、ときに害虫を食べ、受粉の助けをしてくれる良きパートナーでもあります。鳥やカエル、セミなど、季節とともに変化する様々な生物の声（発する音）を聞きながら、訪問者を探すのも楽しいひとときになるでしょう。

一期一会を楽しむ

1種類の植物は、数日間から数週間に渡って長い期間咲いているように見えますが、1日のわずかな時間しか咲かない花、半日でしぼんでしまう花、夜中しか咲かない花もあり、個々の花の寿命はさほど長くはありません。バニラは早朝に開花し、午前11時ごろには閉じ、その後、再び開くことはありません。ヒツジグサは、未の刻（13時～15時頃）に咲くことからその名がついたとされます。実際は、未の刻よりも少し早く咲き始めていますが、未の刻前後の限られた時間のみ見ることができます。また、当園ではキノコの栽培はしておらず、どこから何が出現するか予測できませんが、条件がそろえば、キヌガサタケなど珍しいキノコに出会うこともあります。美しい時間が短い分、その瞬間に出会える喜びはひとしおです。



バニラ（ラン科）



ヒツジグサ（スイレン科）



キヌガサタケ（スッポンタケ科）

御陵園の歩き方

御陵園は、本学グラウンド南隣にあり、学生実習で利用されるほか、平日午後は学内向けに開園しています（学外からの見学には事前申し込みが必要です）。日本薬局方収載生薬の基原植物を中心に、約250種類の植物を展示植栽しています。本校地・南校地から徒歩5分程度の場所に位置することから、気軽に立ち寄っていただけます。

御陵園は、植物を個々に観察して学ぶことに重点を置いた展示をしています。各植物にはネームプレートをつけてありますので、合わせてご覧ください。

世界中に数十万種あるともされる植物の中で、薬として利用されているもの、利用されてきたものが薬用植物として認識されています。それらは特別なものばかりではなく、普段、野菜として食べているものや、花瓶や花壇で観賞用に楽しんでいる植物もあります。1つの植物は複数の「顔」を持つわけですが、次の5つのことを意識していただくと、植物の「薬」としての一面が見えてくるでしょう。



本学グラウンド南隣にある御陵園



温室の様子

植物を見分ける

植物には、とてもよく似ているものが存在します。薬として利用する際には、たくさんある植物の中から正しい種類を選ぶことが、目的とする薬効を得るために必要不可欠です。間違えた種類を選ぶことは、薬効が得られないだけでなく、健康被害につながる恐れもあります。植物の確認方法としては、形態学的手法（外部形態、内部形態）、化学的手法（目的とする成分の有無・含量）、分子生物学的手法（遺伝子配列による確認）などがありますが、植物園では外部形態での識別を学びます。花や果実が付いているときには、比較の見分けやすいですが、それらがなくとも、立ち姿（樹形）、葉の形、葉の付き方などの特徴を観察することができます。また、同じ植物であっても環境や生長のステージによって形が大きく変化することもありますので、季節を追って観察することをおすすめします。

薬用部位を知る

薬用植物は、全草を利用することもあります。蕾、花、果実、種子、樹皮、茎、葉、根茎、根など、植物体の一部分のみを利用することもあります。例えば、キハダは、樹皮を生薬・オウバク（黄檗）として利用しますが、樹皮の中でも「周皮を除いた樹皮」に限定されます。正しい薬用部位を採取しなければ、期待する薬効が得られないため、合わせて覚えるようにしましょう。



キハダ（ミカン科）の皮剥ぎ
（黄色い部分が生薬・オウバク）

収穫時期を知る

植物に含まれる成分は、芽が出た直後から、開花期、結実期、そして枯れるまでの間、常に一定とは限りません。目的とする薬効成分が適正量含まれる時期に収穫する必要があります。例えば、生薬・ジュウヤク（十薬）はドクダミの花期の地上部に限定されています（第18改正 日本薬局方）。一方で、成分含量の問題とは別に、植物の状態に合わせて、収穫時期が決まるものもあります。樹木類の樹皮は梅雨から夏にかけてに収穫されます。これは、植物が活発に水分を吸い上げている時季の方が、樹皮を剥がしやすいという理由からです。それぞれの植物に応じた収穫時期を確認しておくことが重要です。

加工方法を知る

収穫された薬用植物は、通常、乾燥して保存されますが、保存を目的とする乾燥以外に、蒸す、湯通しする、発酵させるなど、薬効の調節を目的とした加工（修治）を施す場合があります。例えば、ショウガの根茎は、そのまま乾燥したもの（石灰をまぶすことが多い）を「ショウキョウ（生姜）」、湯通しまたは蒸してから乾燥したものを「カンキョウ（乾姜）」とします。湯通しまたは蒸すことによって、二次的産物が生じ、体の中から温める作用が強くなることなどが分かっており、目的に応じて使い分けられます。なお、日本と中国では、ショウキョウ、カンキョウで指すものが異なるため、注意が必要です。

使い方を知る

薬用植物や、それを加工した生薬、さらに漢方薬は、間違えた使い方や過剰な摂取、長期間の服用により健康被害が生ずる可能性がありますので、医師・薬剤師の指導の下に服用することが重要です。植物由来のものは、身体に優しいイメージが先行することがありますが、医薬品以外で、茶剤として利用されるものの中にも瀉下作用のあるものやアレルギーを引き起こす可能性のあるものなどがあり、利用する人の体質や体調を考慮する必要があります。

薬用植物園では、スタッフによる植物解説も行っております。皆様のご来園をお待ちしております。

■ 薬用植物園・御陵園利用案内

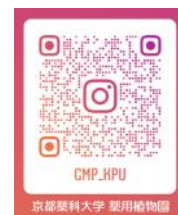
- ・薬用植物園・御陵園は本学学生・職員を対象に開放しています。
見学方法や注意事項についてはmanabaをご覧ください。
- ・一般公開はしておらず、見学には事前申し込みが必要です（ただし、団体のみ）。

【連絡先】

薬用植物園
代表アドレス： gmp@mb.kyoto-phu.ac.jp
電話： 075-572-7952
担当： 月岡淳子



薬用植物園HP



公式Instagram
ID: gmp_kpu

特別展示『山科関係図書コーナー』

図書館

2022年は本学の前身である京都薬学専門学校が山科に移転してから90周年を迎えます。この節目の年を記念し、山科の歴史と文化を広く知っていただくため、図書館1階の「京都薬科大学関係資料コーナー」の一角に特別展示を開催中です。

山科の名所や史実に関するスタッフ手書きのPOPとともに、京都に関するガイドブックや山科らしき土地を舞台とした梨木香歩著の小説「家守奇譚（いえもりきたん）」、琵琶湖から京都市内へと水を引き込む琵琶湖疏水（山科疏水）の百年史などを展示し、さまざまな角度から山科を知ることができる内容となっています。もちろん、「京都薬科大学百年史」といった大学の記念誌もあわせてご紹介しています。

山科の情景に触れ、京都薬科大学の歴史を感じ、さらに理解を深める良い機会につながれば、と願っています。展示資料は随時入替を予定していますので、来館するたびに新たな発見があるかもしれません。この機会にぜひ図書館へお立ち寄りください。

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。

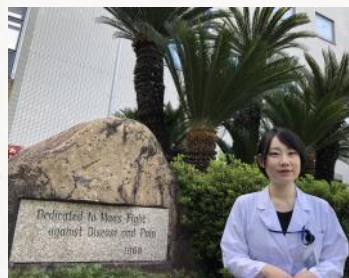
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



卒業生からのメッセージ

興味が道を拓く

やまね あやな
山根 采那



2019年 博士課程修了
(生化学分野)

小野薬品工業株式会社
オンコロジー研究センター
研究職

学生の皆さんは将来どのような職業に就きたいと考えているでしょうか。私は、一生の仕事として、時間を忘れて打ち込めることや、心からやりたいことを見つけて欲しい、そしてそのために、様々なことに興味を持って積極的に挑戦し、やるからにはできるところまでやり切って欲しいと思っています。そう思う理由は、私は研究に打ち込むようになるにつれて、職業にしたいと思うほど研究を面白いと思うようになったからです。

私は今、製薬企業で抗がん剤の薬理研究をしています。私が研究の道に進んだきっかけは、配属された研究室での活動を通してでした。配属された当初、正直私は真面目な学生ではなく、早く研究室から帰ることばかり考えていました。原因の一つは、配属されてしばらくの間は結果が何一つ出ず、実験しても無駄だと

意欲をなくしていたことです。しかしある日、たった一つの実験が上手くいったことで、元来単純な性格であることも幸いし、俄然、研究に興味を持ち始めました。研究に打ち込み始めると、「今まで誰も知らなかったことを自分達の手で解明する」ことが非常に楽しく、もっと探求したいと大学院に進学しました。

大学院の4年間は総じて楽しいものでしたが、苦しいこともありました。最も苦しんだのは、当時、私の口頭や書面で自分の研究成果を誰かに伝える力が非常に低かったことで、良い研究をしても伝わらなければ研究していないのと変わらないと、無力感を抱いたことを覚えています。しかし、泥臭く学会発表等に挑戦し続けたことでプレゼン力は徐々に改善されていき、この時身に着けた力は今も役立っています。

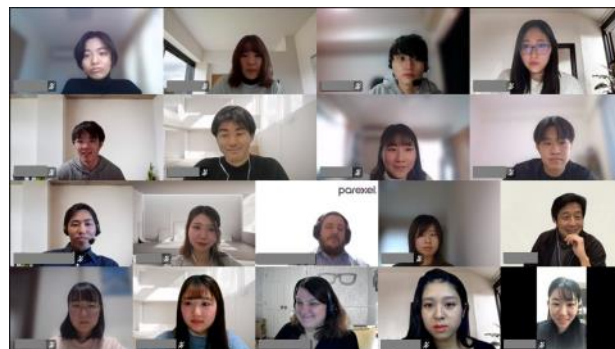
学部及び大学院での研究生活を振り返った時に、やはり研究が好きだから打ち込めるし、苦しいことも前向きに乗り越えられたという結論に至り、研究を職業にしたいと考えました。

前述の通り、私は今、製薬企業で抗がん剤の研究に携わっています。大学時代に学んだことだけでは知識が全く足りず、もっと色んなことに興味を持っておけばと思うこともしばしばありますが、日々勉強し、研鑽に励もうと思えるのは自分自身が研究が好きだからだと思います。

薬学部の将来の進路は薬剤師を始め、多岐に渡ります。私は、学生の皆さんに、時間を忘れて打ち込めることや、心からやりたいことを見つけて欲しいと思っています。そしてそのために、様々なことに興味を持って積極的に挑戦して欲しいと思っています。

本学では医薬品開発業務を題材として実践的な英会話能力を身につけるためのプログラムとして、Clinical Research Management Program (CRMP) を開講しています。このプログラムは、CRO*のパレクセル・インターナショナル株式会社と本学が共同で実施しているもので、海外から講師を招き、すべて英語でおこなう対話中心の5週間のプログラムです。

今年度については、昨年度と同様、COVID-19の影響によりオンラインを活用した10日間の代替プログラム、English for Clinical Trials and Conducting Clinical Trialsを実施しました。リモート形式ではあるものの、講師と参加学生16名が英語で活発に議論しながら、医薬品開発業務を学びました。



ディスカッションの様子

*Contract Research Organization (医薬品開発業務受託機関)

まつだ えりか
■ 統合薬科学系 5年次生 松田 英里香

私は以前より医薬品開発に興味があり、募集要項を見て面白そう！と思ったため本プログラムに応募しました。始めは、初対面のメンバー及び外部の先生と行う英語でのオンライン授業に緊張と不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、クラスが活気的で雰囲気もとても良かったため、すぐに肩の力を抜いて楽しむことができました。

また、先生が冒頭に「あなたがわからないな、と聞く事はきっと他の誰かも同じように感じているはずだからいつでも聞いてね」と仰ってくださったおかげで、些細なことでも気軽に質問することができました。加えて、アウトプットする機会が多く、学びをその都度自分の中に落とし込めたため、常に理解が追いついた状態でプログラムを進められたと感じています。先生方は優しく、ユーモアに溢れており、講義内容のみならず、現場での実話やご自身のエピソードについても沢山お話くださいました。こういった貴重なお話を伺うことは嬉しく、楽しかったです。

本プログラムを通して医薬品開発に関する理解が深まったことで、より一層CROでの職に魅力を感じるようになりました。また時折、自らの英語力の未熟さゆえ意見を上手く伝えられずもどかしさを感じたことから、語学を上達させたいと思うようになりました。この気持ちは、現在も英語学習におけるモチベーションとなっています。学びと刺激に満ちた、本プログラムに参加することができて本当に良かったです。この場をお借りして、携わられた全ての方々に心から御礼申し上げます。

もりわき あかね
■ 臨床薬剤疫学分野 5年次生 森脇 茜

私がCRMPを受講したのは、医薬品開発への理解を深めたいという思いと、英語に触れる機会を持ちたいという思いからでした。また、自分の将来を考えるきっかけにしたいという思いもありました。

本研修は、講師の方からの説明、質疑応答、グループに分かれてのプレゼンテーションという流れで進んでいきます。対話方式なので意見を求められる場面が非常に多く、積極性がとても重要です。折角貴重な機会を得ているのだから頑張ろう、という思いで毎日必ず自分の考えを伝えるように意識しました。

何かにチャレンジすることは、一見とてもハードルが高いですが、一歩目を踏み出してしまえば、後はほとんど拍子に進みます。全て英語の授業と聞くと、尻込みしてしまうかもしれませんが、必ず慣れはくるものです。日々の予習復習をきちんと行うことで、始めは理解し辛かった内容も、最後には理解できるようになりますし、グループディスカッションでも積極的に意見を出せるようになります。英語だからと不安に思う必要はありません。

この研修を通して、医薬品開発への知識や英語力だけでなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力といった、社会の中で求められるスキルも得ることができました。また、医薬品開発の世界に深く触れることで、自分の将来を深く考え、固めるきっかけにもなりました。新しい世界に踏み込むことで見えてくるものが沢山あります。何かにチャレンジしたいと思っている方には是非受けていただきたい研修です。

最後に、こうした貴重な機会を提供してくださったパレクセルの皆様および京都薬科大学の皆様々に心から感謝いたします。

国際交流推進室

3月9日と16日の2日間（各日2時間）、本学の海外協定校であるタイ バンコクのマヒドール大学（Mahidol University）薬学部の学生6名と本学の学生6名が、Zoomによるオンライン交流を行いました。1日目には、スライドを使った自己紹介や、小部屋に分かれての意見交換を行い、2日目には各大学の代表が、プレゼンテーションを行いました。参加した学生の感想を下記のとおり共有させていただきます。

国際交流センター長 佐藤 毅

■公衆衛生学分野 4年次生

さいとう ちず
齋藤 千寿

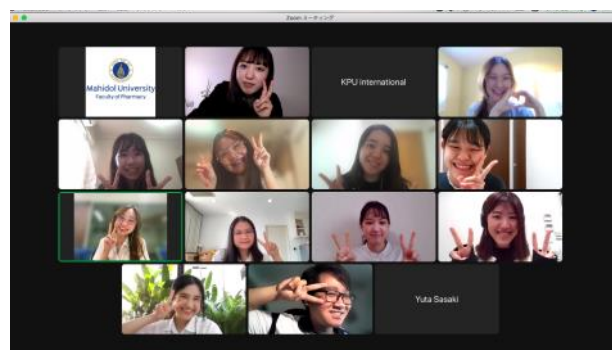
高校時代に行ったタイ人との交流がとても楽しく、またその時に知り合った学生とは繋がりが続いているため、そのような機会を再び望んで交流会に参加しました。司会進行の役を任された上で意識した点は2つあります。

1つ目は交流会を、長期的な関係を築くきっかけにすることを意識しました。交流会といっても2回、しかもオンラインということで、そのみの会話を大切にするというよりは、これからも刺激しあえる友人関係を作ることが重要だと考えました。実際にSNSを交換することで、今でも連絡を続けることができています。

2つ目は英語を話すのが難しくても、とにかく楽しんでもらうことを意識しました。自分自身英語を話すことが久しぶりであったため、うまく話せる自信は全くありませんでした。おそらく他の日本人参加者もその気持ちがあったと思いますが、タイの学生は日本が好きで温かく接してくれると思っていたため、こちらも元気に笑顔でいれば、楽しんでいる気持ちは伝わると思いました。その雰囲気や、司会である私から作ることができたと思います。

交流会の感想としては、国・文化が違えども同じ薬学生としての考え方に共通点は多いと感じました。薬剤師の役割といった将来の話や、試験のストレスなど、学生生活での苦勞も共感でき、日本語で「頑張れ!」と言ってくれたことが印象に残っています。

全体を通して、みんなの笑顔のおかげで会が盛り上がりました。外国の方と英語で、自分の意見を伝え合う時間はとても有意義であり、新たな視点で薬学や将来を考えることができました。これからも大切な友達として、繋がっていききたいと思います。



■病態生理学分野 4年次生

しんごう はるか
新郷 陽香

私が今回の交流会に参加しようと思った理由は、コロナ禍によりドイツへのサマープログラムに行けなかった中で、英語を駆使して何かに挑戦したいと思っていたからです。

今回私は大学紹介等のプレゼン役に立候補し、京都薬科大学の魅力や大学生活、研究室でのこと、進路、そして京都での休日の過ごし方等についてプレゼンを行いました。マヒドール大学の学生からは「京薬生がどのように進路を選択していくのか」といった質問を受けて、考えさせられましたし、自分が準備したプレゼンを真剣に聞いてもらえたことがとても嬉しかったです。

マヒドール大学の学生と一対一で話すブレイクアウトルームでは、趣味の話や、なぜ薬剤師になろうと思いい、その後はどうしていきたいか等お互いに深く質問し合うことができ、マヒドール大学の学生は、自分の意見をしっかり持っているということに気づかされました。

交流会が終わった後も私は数人とSNSで今も交流を続けています。彼らが休日も復習をしていたり、その日の学習内容が送られてくる度に、彼等が普段から私の何倍も勉強をしていることや、彼等は英語で薬学の授業を受けることが多いために流ちょうに英語を話せることなどに驚かされました。

今回の交流を通じて、母国語以外で表現することの難しさや、自己アピール力の必要性を感じたため、今後は、薬学専門用語の語彙力を増やしたり、日本だけでなく世界で活躍できる人材となるために必要なことを意識していこうと思います。

本学では、授業の改善を目的とした学生による授業評価を開講期ごとに年2回実施しています。授業評価の方法として、2002年度から「授業アンケート」を行い、2009年度以降、全学生を対象に実施しています。授業アンケートはFormsを利用して各講義科目の担当教員（専任教員及び非常勤講師）ごとに実施しています。

2021年度は前年度同様に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として対面授業と同時配信授業を隔週で行うハイブリッド型授業を行い、例年とは異なった授業形態によるアンケートとなりました。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために「リフレクション・ペーパー」を作成しています。全教員のリフレクション・ペーパーは冊子体にして図書館で公開し、閲覧ができるようにしています。これにより、今後の授業改善が積極的に進み、教員及び学生にとって有意義な授業が実施されることを期待します。

2021年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下の通り報告します。

■「学生自身の授業で学ぶ態度」と「教員の授業に関する項目」について別々に評価をしてもらいました。

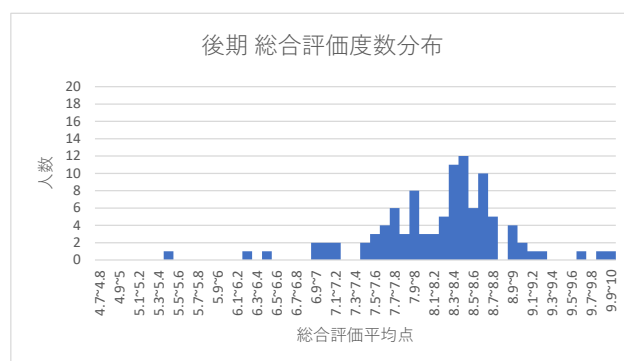
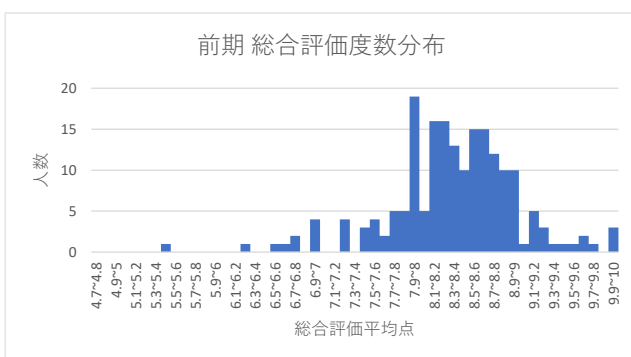
◇「学生自身の授業で学ぶ態度」

設問	前期評価	後期評価
Q1 予習・復習などの授業外学習を十分に行い、この授業に対して意欲的に取り組んだ。	4.00	3.95
Q2 授業の到達目標を達成できた。	4.06	3.95
Q3 授業で学んだことを、他の授業の内容（今までに学んできたこと、他の科目など）と関連付けながら理解することができた。	4.15	4.03
Q4 授業で学んだことで興味・関心が高まり、これからより深く学びたいと思った。	4.20	3.98

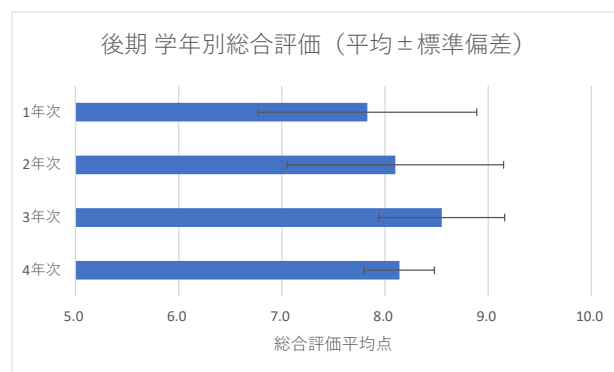
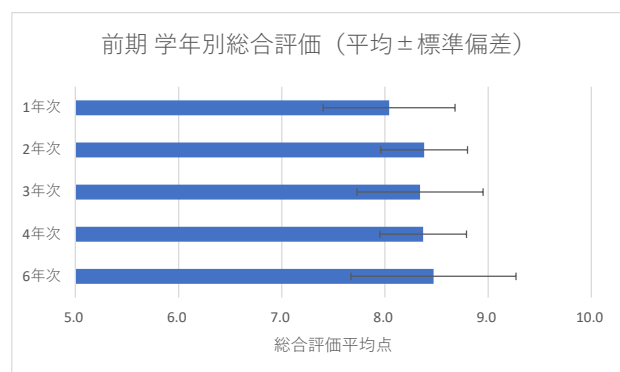
(5段階評価)

◇教員の授業に関する項目

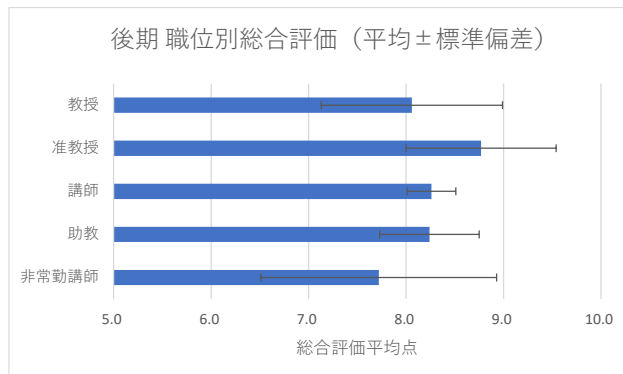
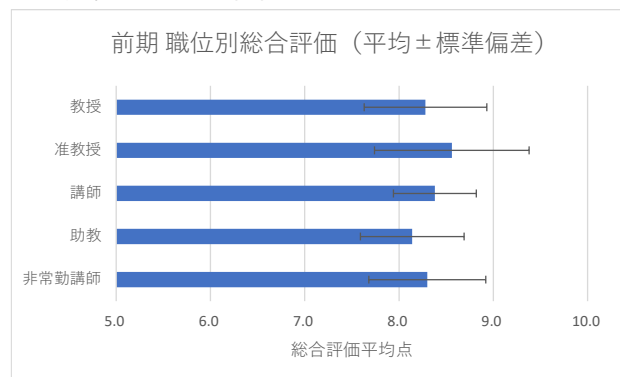
1) 科目・教員別総合評価の分布



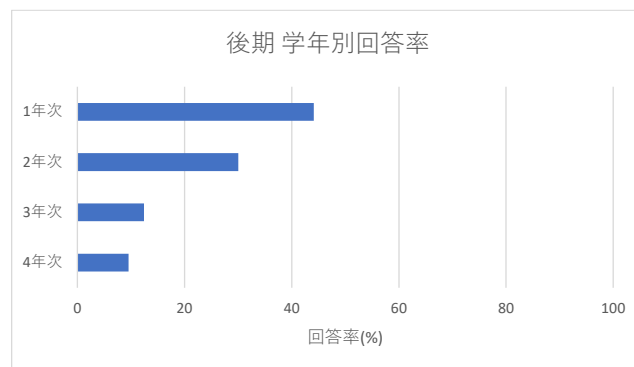
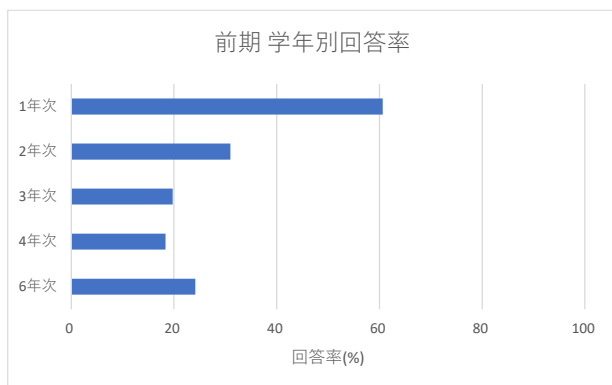
2) 学年別の総合評価平均点



3) 職位別の総合評価平均点



4) 学年別のアンケート回答率



■ まとめ

最後に、授業アンケートに協力頂いた学生諸君に感謝するとともに、今後の授業改善のために、アンケート回答率の更なる向上を目指したいと思います。授業アンケートは今後も継続して実施しますので、回答へのご協力をお願いします。

また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。



2022年度試験日程について

教務課

2022年度試験日程については、最新情報をmanabaでご確認ください。シラバスをよく読み、各学年とも進級・卒業要件を確認して受験してください。

再試験の受験手続きはWebで行います。必ず指定の期間に手続きを行ってください。

「人と文化」選択科目の不合格科目については、再試験手続きをしなかった場合、放棄とみなします。放棄科目については、履修した年度内は平均点に算入さ

れますが、翌年度以降は平均点の算出対象外となります。

Webシラバス内にある学修の手引きにも、試験制度の詳細や受験にあたっての心得が掲載されていますので、よく読んでください。

学修の手引き



2022年度新入生向けクラブ・サークルの勧誘活動

Event

学生課

2022年4月4日（月）に、新入生に向けたクラブ・サークル紹介を、COVID-19感染防止対策を取って創立130周年記念館で実施しました。感染防止対策を取りながらも、参加団体はポスターや競技用具などを用いて趣向を凝らした勧誘を行っており、新入生を楽しませていました。

4月1日、2日、4日には学生自治会が主体となり、正門前で花道を作り新入生の歓迎をしました。昨年度はコロナ禍の為実施できませんでしたが、今年度は感染防止対策を取った上で実施することができました。



感染防止対策をした上で
クラブ・サークルの紹介を行いました



正門前の花道の様子

■2022年度生涯研修プログラム「漢方講座」および「eラーニング講座」申込受付について

◇「漢方講座」漢方治療の臨床力を身につけよう

京都漢方研究会との共催で、漢方治療の基礎から臨床まで4回コースで学びます。漢方の知識や経験のない薬剤師にも理解しやすいプログラムですので、一から漢方を学びたい方にもお勧めします。

＊日程：2022年9月11日（日）、10月16日（日）、11月13日（日）、12月18日（日）10:00～16:00

＊場所：京都薬科大学躬行館3階 T31講義室

＊定員：100名 ＊受講料：20,000円 ＊認定単位：G24 計12単位（1単位／演題）

＊申込受付期間：2022年7月13日（水）～8月29日（月）

＊申込方法：生涯教育センターホームページよりお申込みください。

開催日	10:00-11:40【基礎】	12:30-14:10【薬物】	14:20-16:00【臨床】
2022年 9月11日 (日)	セルフメディケーション領域の漢方 ー便秘ー 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	【薬局・薬剤師の為の分かり易い漢方】 『山本巖流一貫堂漢方医学』 (1)感冒・風邪とは？(2)頭痛・目眩 ファルメディコ株式会社 代表取締役会長 一般社団法人日本在宅薬学会 理事 一般社団法人日本在宅薬学会 漢方研究会 会長 狭間 紀代 先生	心療内科領域での漢方治療 ー柴胡剤を中心にー にしだクリニック 院長 西田 慎二 先生
2022年 10月16日 (日)	セルフメディケーション領域の漢方 ー下痢ー 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	「漢方薬・生薬に関する最近の話題」(仮) 京都大学大学院薬学研究科 薬品資源学分野 准教授 伊藤 美千穂 先生	効かせる漢方（女性のQOLを高めるために） かげやま医院 院長 薩山 充 先生
2022年 11月13日 (日)	セルフメディケーション領域の漢方 ーむくみー 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	知っておきたい漢方配合生薬（その2） 京都漢方研究会 理事長 京都薬科大学 名誉教授 松田 久司 先生	漢方の病理学 気血水の考え方2022 三谷ファミリークリニック 院長 三谷 和男 先生
2022年 12月18日 (日)	セルフメディケーション領域の漢方 ー冷えー 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	生薬の選品と鑑別(3) 株式会社栃本天海堂 東京営業所 所長 宮嶋 雅也 先生	漢方薬でサポートするこれからの循環器診療 神戸海星病院 循環器内科・漢方内科 北村 順 先生

※COVID-19感染防止対策を講じながら開催します。座席指定にご協力をお願いします。

また感染拡大状況により、実施方法等に変更が生じる可能性がありますので、最新情報、詳細は必ずホームページ（<https://skc-kyoto-phu.ac.jp/>）をご確認ください。

◇「eラーニング講座」

2022年度卒後教育講座および2022年度漢方講座を開催時に収録し、新規コンテンツとして、順次追加します。2021年度卒後教育講座および2021年度漢方講座コンテンツは、6月より配信しています。

対面での研修会に代わる受講や理解度に合わせた学習にご活用ください。

＊配信期間：2022年6月1日（水）～2023年2月28日（火）

＊受講料：15,000円 ＊認定単位：G24 計50単位配信予定（1単位／演題）

＊申込受付期間：2022年3月1日（火）～2023年2月23日（木）

＊申込方法：生涯教育センターホームページよりお申込みください。

●本学の学生・職員は、2022年度漢方講座および2022年度eラーニング講座を無料で受講できます。受講希望者は、まずは実務・生涯教育課までメールでご連絡ください。詳しくは、manaba掲示板でご確認ください。皆さんの参加をお待ちしています。

■問合せ先

京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課

＊E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

＊TEL：075-595-4677（平日10:00～16:00）

＊FAX：075-595-4792



生涯教育センター
トップページ



2022漢方講座
申込ページ



2022 eラーニング
申込ページ

1. 入学定員・募集人員

※最新の情報は本学Webサイトよりご確認をお願いします。

学部	学科	入学定員
薬学部	薬学科	360名

https://www.kyoto-phu.ac.jp/exam_information/



2. 募集人員・出願資格

	学校推薦型選抜		一般選抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (共通テスト前期)	一般B方式 (本学独自)	一般C方式 (共通テスト後期)
募集人員	50名	90名	45名	170名	5名
出願資格	高等学校長へ通知	2023年3月卒業見込者及び 2022年3月卒業者 ^{※1} で、 学習成績の状況3.2以上。	2023年3月卒業見込者及び既卒者		

※1 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2022年3月に修了した者、及び2022年4月以降2023年3月末までに修了または修了見込の者を含む。

3. 選抜日程等

	学校推薦型選抜		一般選抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (共通テスト前期)	一般B方式 (本学独自)	一般C方式 (共通テスト後期)
出願期間	2022年11月1日(火) ～2022年11月8日(火) 必着	2022年11月1日(火) ～2022年11月8日(火) 当日消印有効	2023年1月6日(金) ～2023年1月13日(金) 当日消印有効	2023年1月6日(金) ～2023年1月20日(金) 当日消印有効	2023年2月21日(火) ～2023年3月7日(火) 当日消印有効
試験日	2022年11月14日(月)	2022年11月19日(土)	2023年1月14日(土) 2023年1月15日(日)	2023年2月3日(金)	2023年1月14日(土) 2023年1月15日(日)
合格発表日	2022年12月1日(木)		2023年2月16日(木)		2023年3月14日(火)
入学手続 期限	2022年12月9日(金) 必着 入学金・授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限		2023年2月22日(水) 入学金納付期限		2023年3月22日(水) 入学金納付期限
			2023年3月22日(水) 必着 授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限		

4. 検査・試験項目等

学校推薦型選抜(指定校制)
面接・調査書を基に総合的に判定する。
試験場：京都薬科大学キャンパス

学校推薦型選抜(一般公募制)	配点
適性検査Ⅰ：英語 [コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ]	100
適性検査Ⅱ：化学 [化学基礎, 化学]	100
面接	40
調査書 (国語と数学の学習成績の状況の合計×2)	20
ただし、一定基準に達しない検査項目があれば、不合格になることがある。	
試験場：京都薬科大学キャンパス	

一般選抜A方式(共通テスト前期)		配点
数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語	200 ^{※2}
国語	国語[近代以降の文章のみ]	100
理科	化学[必須], 物理・生物から1科目[選択]	200
試験場：大学入試センターが指定(個別試験はなし)		

※2 リーディングとリスニングの合計点を200点満点に換算し素点とする。
(リーディング160点満点、リスニング40点満点)

一般選抜B方式		配点
数学	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B[数列, ベクトル]	200
外国語	英語[コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ]	200
理科	化学基礎, 化学	200
試験場：京都薬科大学キャンパス, 大阪国際交流センター		

一般選抜C方式(共通テスト後期)		配点
理科	化学	100
数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	100 ^{※3}
調査書		15 ^{※4}
志望理由書		15
試験場：大学入試センターが指定(個別試験はなし)		

※3 200点満点を100点満点に換算し素点とする。

※4 学習成績の状況×3(小数点以下第1位を四捨五入)を素点とする。

問合せ先：京都薬科大学 入試課 TEL 075-595-4678 / FAX 075-583-2232 /HP <https://www.kyoto-phu.ac.jp>

2022年4月

	薬学専攻 博士課程(4年制)	薬科学専攻 博士後期課程(3年制)	備 考
募集人員	(一般入試、社会人入試) 10名	(一般入試、社会人入試) 2名	
募集分野等	(募集分野等、協力分野等) 23分野等	(募集分野等、協力分野等) 14分野等	協力分野においても研究指導を受ける事ができる
出願資格	(1) 大学(6年制薬学部)を卒業した者(2023年3月末日までに卒業見込者を含む) (2) 外国において学校教育における18年の課程(最終の課程は薬学)を修了した者(2023年3月末日までに修了見込者を含む) (3) 大学(4年制薬学部)を卒業後、社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上の実務経験を有し、かつ、薬剤師免許を有している者で、本学大学院における入学資格審査において、第1号の者と同等以上の学力があると認めた者 (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、第1号の者と同等以上の学力があると認めた者	(1) 薬学系(薬学、臨床薬学又は薬科学)又は理科系の修士の学位を有する者(2023年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (2) 外国において前号と同等の修士の学位に相当する学位を有する者(2023年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (3) 大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、本学大学院における入学資格審査において、第1号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者 (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、第1号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者	<薬学専攻> 募集分野等 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、衛生化学分野 微生物・感染制御学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 病態生化学分野、薬物治療学分野 臨床薬理学分野、薬理学分野 臨床腫瘍学分野、薬剤学分野 臨床薬学分野 臨床薬剤疫学分野、統合薬科学系 臨床薬学教育研究センター (協力分野等) 薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 放射性同位元素研究センター <薬科学専攻> 募集分野等 薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 放射性同位元素研究センター (協力分野等) 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 薬理学分野、薬剤学分野、統合薬科学系
主な出願書類	(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{※1} (3) 卒業論文及び卒業論文の要旨(英文可) ^{※2} (4) 志願者名票・受験票 (5) 出願資格(3)の者は薬剤師免許の写し (6) 卒業・修了(見込)証明書 ^{※1} (7) 出願資格(2)の者は住民票 ^{※3}	(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{※1} (3) 修士論文及び修士論文の要旨(英文可) ^{※2} (4) 志願者名票・受験票 (5) 研究業績録 (6) 修了(見込)証明書 ^{※1} (7) 出願資格(2)の者は住民票 ^{※3}	※1 本学卒業・修了(見込)者を除く ※2 卒業・修了見込者は卒業研究の概要(2,000字以内)1部(英文可) ※3 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集) 2022年7月 1日(金) ～ 2022年7月15日(金) [必着] (冬季募集) 2023年1月 6日(金) ～ 2023年1月13日(金) [必着]	
	試験日	(夏季募集) 2022年8月22日(月) (冬季募集) 2023年1月25日(水)	
	合格発表日	(夏季募集) 2022年8月26日(金) (冬季募集) 2023年1月26日(木)	
	入学手続期限	2023年3月10日(金) 入学金納付期限 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限	
選考	面接試験	専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。 専攻に必要な研究能力について、修士論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	

★出願に関する問い合わせ先
事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

※最新の情報は右記QRコード(本学ホームページ)よりご確認をお願いします。
https://www.kyoto-phu.ac.jp/exam_information/



2022年4月

		一 般 入 試	社 会 人 入 試	備 考
募集人員		5 名		(募集分野等)
		若干名	若干名	薬化学分野、薬品製造学分野
募集分野等		薬科学専攻 15分野等	薬科学専攻 15分野等	薬品化学分野、生薬学分野 薬品分析学分野、代謝分析学分野 薬品物理化学分野 細胞生物学分野、生化学分野 病態生理学分野、薬理学分野 薬剤学分野、統合薬科学系 放射性同位元素研究センター 共同利用機器センター
出願資格		(1) 大学を卒業した者(2023年3月末日までに卒業見込者を含む) (2) 2023年3月末日において大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められる者 (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者(2023年3月末日までに修了見込者を含む) (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者	大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において1年以上の実務経験を有する者	
主な出願書類		(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{※1} (3) 志願理由書 (4) 志願者名票・受験票 (5) 出願資格(3)の者は住民票 ^{※2} (6) 卒業(見込)証明書 ^{※1}	(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{※1} (3) 志願理由書 (4) 志願者名票・受験票 (5) 実務実績書 (6) 卒業証明書 ^{※1}	※1 本学卒業・修了(見込)者を除く ※2 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集) 2022年7月1日(金)～2022年7月15日(金) [必着] (冬季募集) 2023年1月16日(月)～2023年1月23日(月) [必着]		
	試験日	(夏季募集) 2022年8月22日(月) (冬季募集) 2023年2月10日(金)		
	合格発表日	(夏季募集) 2022年8月26日(金) (冬季募集) 2023年2月17日(金)		
	入学手続期限	2023年3月10日(金)入学金納付期限 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限		
試験科目	外国語(英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	—————	
	薬学専門	I～VII系*の15問題から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)		* I系 創薬科学系 薬化学分野、薬品製造学分野 薬品化学分野、生薬学分野 II系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野 薬品物理化学分野 III系 生命薬科学系 細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 IV系 病態薬科学系 薬理学分野 V系 医療薬科学系 薬剤学分野 VI系 統合薬科学系 VII系 附属施設 放射性同位元素研究センター 共同利用機器センター
	小論文他	—————	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
	面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問	【学識、説明能力、自覚・意欲】

★出願に関する問い合わせ先

事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

※最新の情報は右記QRコード(本学ホームページ)よりご確認をお願いします。

https://www.kyoto-phu.ac.jp/exam_information/



令和4年度科学研究費助成事業 採択状況

Report

研究科長 柴田 敏之

本学研究者の研究資金には、大学から配当される研究費のほか、国などから助成される公的研究費（私学助成金を含む。）、公益財団法人や企業からの研究助成寄付金、共同研究・受託研究契約に基づく企業からの研究費などがあります。

公的研究費は、文部科学省をはじめ厚生労働省、日本医療研究開発機構（AMED）などから助成されていますが、その中でも大きな割合を占めるのが、文部科学省所管の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあり

ます。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

下表には代表者のみ記載していて、分担者として共同研究をしている場合は含まれていません。令和4年度は、新規で36件申請して15件が採択されました（新規採択率41.7%）。合計採択件数は52件、令和4年度交付予定総額は109,070千円となっています。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。挑戦的研究（萌芽）・学術変革領域研究は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額 (千円)	新規・継続
新学術領域研究	石原 慶一	病態生化学	22H04822	ダウン症知的障害における初期エンドソーム破綻と銅蓄積	2,990	新規
基盤研究(B)	大石 真也	薬品化学	22H02747	鏡像型タンパク質の特性を活かした創薬スキャフォールドの創製と応用	5,590	新規
基盤研究(B)	小林 祐輔	薬化学	22H02748	次世代ペプチド創薬の基盤となる分子技術の開発	12,610	新規
基盤研究(B)	関根 勇一	細胞生物学	22H03544	機能性食品成分による中枢神経再生調節についての研究	9,360	新規
基盤研究(B)	勝見 英正	薬剤学	22H03960	中分子医薬品の腎臓標的化DDSの開発による腎臓疾患治療法の開発	7,020	新規
基盤研究(B)	古田 巧	薬化学	21H02611	カルコゲン結合で構造制御する分子認識型触媒の創製	4,160	継続
基盤研究(B)	松本 崇宏	公衆衛生学	20H03397	がん化学療法抵抗性改善機能に基づく天然由来新規医薬品シーズの開拓	3,380	継続
基盤研究(B)	高田 和幸	統合薬科学系	20H03569	脳内免疫環境変化の解析によるアルツハイマー病の病態解明と治療への応用	4,810	継続
基盤研究(C)	岸野 良治	一般教育	22K00065	空海の遺志を継ぐ学僧たち：近世後期の「根本説一切有部律」宣揚運動	1,170	新規
基盤研究(C)	坂本 尚志	一般教育	22K00115	「最初のフーコー」の総合的研究ーフランス国立図書館所蔵の未公開資料に基づく考察	520	新規
基盤研究(C)	斎藤 博幸	薬品物理化学	22K06556	アミロイド共存分子によるタンパク質凝集・線維化制御機構の解明	1,690	新規
基盤研究(C)	長澤 一樹	衛生化学	22K06590	抗がん剤のうつ病誘発リスクに関する基礎的および薬剤疫学的検証	1,040	新規
基盤研究(C)	齊藤 洋平	生化学	22K06621	熱ストレスによるがん悪性化シグナル活性化とその阻害効果	1,820	新規
基盤研究(C)	松本 健次郎	薬物治療学	22K06656	過敏性腸症候群の内臓痛覚過敏制御を志向したTRPV2の機能解明	1,300	新規
基盤研究(C)	飯居 宏美	臨床腫瘍学	22K06756	GGCTとxCTのダブル阻害によりフェロトーシスを増強する全く新しいがん治療戦略	1,690	新規
基盤研究(C)	石原 慶一	病態生化学	22K07033	ダウン症胎生期脳発達遅滞のメカニズム解析と胎内治療の開発	1,820	新規
基盤研究(C)	松村 千佳子	臨床薬学教育研究センター	22K10478	緩和医療における患者報告型アウトカムを活用した薬学的支援方法の確立	910	新規
基盤研究(C)	南部 寿則	薬品製造学	21K05048	イリド求核剤を用いるスピロシクロプロパンの開裂一環化反応による炭素環構築法の開発	1,430	継続
基盤研究(C)	長尾 耕治郎	薬品物理化学	21K05391	膜脂質リモデリングを介する細胞自律的な温度適応機構の解明	1,300	継続
基盤研究(C)	服部 恭尚	共同利用機器センター	21K05417	SARS 3CLプロテアーゼ阻害剤の高活性化と抗COVID-19薬への展開	1,170	継続
基盤研究(C)	佐藤 毅	一般教育	21K06038	Notch受容体機能の膜組成への依存性の解析とシグナリング機構の解明	780	継続
基盤研究(C)	浜田 翔平	薬化学	21K06487	ニトロキシル型触媒によるC-H酸化反応の開発	1,040	継続
基盤研究(C)	河嶋 秀和	放射性同位元素研究センター	21K06502	スカベンジャー受容体のイメージングに基づく生活習慣病および悪性腫瘍の評価	1,300	継続
基盤研究(C)	武上 茂彦	薬品分析学	21K06523	多粒子結合イオン液体ナノ粒子を用いた超高感度電気化学発光イムノアッセイ法の開発	1,430	継続
基盤研究(C)	鳥羽 裕恵	臨床薬理学	21K06606	貧血治療薬エリスロポエチンの動脈硬化抑制薬としてのドラッグ・リポジショニング研究	1,170	継続
基盤研究(C)	伊藤 由佳子	薬物動態学	21K06679	リキッドバイオプシーを活用する腫瘍化学療法マネジメント実用化への展開	1,430	継続
基盤研究(C)	河瀬 真治	薬物動態学	21K06720	がん化学療法施行時の悪心・嘔吐リスク予測システムの構築と戦略的制吐療法の確立	1,560	継続
基盤研究(C)	辻本 雅之	臨床薬学	21K06721	金属カチオン製剤によるロスバスタチン濃度低下メカニズムの解明と関連医薬品への応用	1,430	継続
基盤研究(C)	小原 幸	臨床薬理学	21K08141	細胞外ミトコンドリア放出を伝達ツールとした心不全病態悪化の検討及び治療への応用	1,170	継続
基盤研究(C)	村木 優一	臨床薬剤疫学	21K10290	基礎や臨床研究で得られた臨床上的有用性はリアルワールドデータで検証できるのか	1,170	継続

基盤研究(C)	渡辺 徹志	公衆衛生学	21K12271	大気粉塵の炎症反応誘発性と喘息発作の関係の解明	1,300	継続
基盤研究(C)	小林 数也	薬品化学	20K06953	ヒドロキシプロリンを基盤とする汎用的プロテアーゼ阻害剤設計戦略の開発	1,430	継続
基盤研究(C)	高山 健太郎	衛生化学	20K06974	1型ニューロメジンU受容体アンタゴニストの創出と2型炎症克服のための創薬基盤構築	1,430	継続
基盤研究(C)	田中 智之	薬理学	20K07040	マスト細胞の脱顆粒応答抑制に関わるGPR35の機能解析	1,560	継続
基盤研究(C)	安井 裕之	代謝分析学	20K07056	亜鉛要求酵素の活性変動を分子基盤とした炎症性腸疾患の病態解析と新規治療戦略の探索	910	継続
基盤研究(C)	秋葉 聡	病態生化学	20K07077	NASHの新規治療観点となる細胞種特異的IVA型PLA2の制御による肝線維化抑制	1,170	継続
基盤研究(C)	加藤 伸一	薬物治療学	20K07078	オーファンGタンパク質共役受容体GPR35の炎症性腸疾患の病態における役割解明	1,690	継続
基盤研究(C)	中村 誠宏	生薬学	20K07109	アシクロビルリン酸化酵素制御に基づく薬用植物由来抗単純ヘルペスウイルス薬の開発	1,560	継続
基盤研究(C)	中田 徹男	臨床薬理学	20K07300	ストレス抑制物質が脳心腎連関に及ぼす機序の検討	1,040	継続
基盤研究(C)	中田 晋	臨床腫瘍学	20K07623	GGCTによる代謝変容が誘導する新規Hedgehog経路活性化機構の解明	1,300	継続
基盤研究(C)	田中 憲一	物理学	20K08050	BNCT治療中のビーム強度・線質の照射面内2次元分布を測定する手法の開発	910	継続
基盤研究(C)	木村 寛之	代謝分析学	20K08061	原発性アルドステロン症の核医学検査法の開発	1,300	継続
若手研究	冢瀬 諒	臨床薬剤疫学	22K17335	複数のリアルワールドデータをを用いて制吐薬の適正使用に関する実態を評価できるのか	3,510	新規
若手研究	扇田 隆司	薬品物理化学	21K15245	アミロイド凝集核を構成する異常型 α シヌクレインの構造特性の物理化学的解明	1,560	継続
若手研究	幸 龍三郎	生化学	21K15263	破綻したリン酸化シグナルを基盤としたがん細胞分裂によるがん進展機構の解明	1,690	継続
若手研究	安田 浩之	薬物治療学	21K15276	細胞外トラップの消化管炎症における役割解明	1,820	継続
若手研究	戸田 侑紀	病態生理学	20K17388	骨髄腫幹細胞のexosome分泌型miRNAを介した低酸素生存適応	910	継続
若手研究	鴨志田 剛	微生物・感染制御学	20K17475	細菌-宿主相互作用により実験進化した細菌を用いた新視点からの感染症研究	780	継続
若手研究	棚橋 嵩一郎	健康科学	20K19656	習慣的な有酸素性運動が動脈硬化の進行を抑制する機序の解明:ADMAに着目して	1,170	継続
若手研究	森下 将輝	薬剤学	20K20205	ビフィズス菌の糖代謝機構を利用した機能性細胞外小胞の創製とがん免疫療法への応用	1,820	継続
若手研究	地寄 悠吾	臨床薬学教育研究センター	19K16428	数理モデルを用いたインフルエンザの流行と治療法の評価	520	継続
研究活動 スタート支援	内藤 行喜	代謝分析学	21K20734	亜鉛錯体を用いたインスリン抵抗性改善効果・糖尿病の発症予防効果へのチャレンジ	1,430	継続

2022年度入学試験結果と総括

Report

入試課

2022年度入学試験結果について、志願者数および合格者数は表の通りです。2022年度入学試験の志願者数は前年比134名(7.2%)増加し、1,991名となりました。

2022年度においても、試験室の収容人数を通常の半分とし、間隔を空けて座席を配置したほか、机・椅子の消毒を試験前後に実施するなど、受験生が安心して受験できる環境を整備しました。また、一般選抜B方式では、引き続き創立130周年記念館を試験室とし、試験室を分散することで、受験生同士の対人間距離を確保しました。

入試広報活動は、まん延防止等重点措置等の状況を鑑み、6月・8月のオープンキャンパスはオンラインで

実施し、10月は対面とオンラインの同時開催で行いました。Webを介しても本学の魅力が伝わるよう、「模擬講義」「臨床現場で活躍する薬剤師」「オンライン体験実習」など新たなプログラムを行い、多くの高校生や保護者の皆様にご参加いただきました。アンケートにおいても、「オープンキャンパスを通じて、本学の受験意欲が高まった。」というコメントを多数いただき嬉しく思います。今後もより本学の魅力が受験生に伝わるよう、創意工夫に努めます。

2023年度入学試験においても広報活動を通じて本学の魅力を伝え、志願者獲得に努める所存です。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
学校推薦型選抜 (指定校制)	50名	46名	46名	46名
学校推薦型選抜 (一般公募制)	80名	237名	100名	100名
一般選抜A方式	45名	783名	414名	73名
一般選抜B方式	180名	908名	429名	161名
一般選抜C方式	5名	17名	8名	3名

■ COVID-19禍における喪失体験からの回復とサポートを考える

長期化しているCOVID-19禍において、その影響については非常に個人差が大きく、「この約2年なんとかギリギリ踏ん張ってきたけれど、そろそろ限界が来てしまった」と調子を崩してしまう人も珍しくありません。

このCOVID-19禍では、人はそれぞれの喪失体験を経験しています。喪失体験の代表的なものは大切な人との死別が挙げられますが、喪失体験はそれだけではなく、「その人にとって大切な今まであったもの（能力、生活、体験機会等も含まれる）が失われてしまった、あるいは失われていく体験」も指します。例えば、学生のみなさんであれば、気兼ねなく周囲の人たちと交流できる場、希望すれば自由に行動できる環境、リフレッシュの機会等を失っていると感じている人は少なくないでしょう。最近になってそういった環境が少しずつ戻ってきているとはいえ、十分であるとは言い難いですし、喪失体験の影響は後になってじわじわと出てくることもあるのです。

喪失体験後、それを受け入れていく心理的な回復過程については、キューブラー・ロスというドイツの精神科医が述べた有名な「喪失の5段階」というものがあります。①否認②喪失の認識と怒り③取引④抑うつ・無力感⑤受容という5段階です。今回のCOVID-19禍で言えば、例えば以下のような考えや思いが挙げられるでしょう。

- ①否認：「COVID-19なんてたいしたことない。自分は別に大丈夫」
- ②喪失の認識と怒り：「なぜ自分がこんな目に遇わないといけないのか！悪いのは〇〇だ！」
- ③取引：「自分が△△を頑張るぞ。そうすればきっとうまくいくはず」
- ④抑うつ・無力感：「何をしてもうまくいかない、もう疲れてしまった・・・」
- ⑤受容：「COVID-19禍以前には戻れるわけではない。新しいやり方、生き方を探ろう」

もちろん、すべての人がこのように5段階のプロセスをそのまま経るというわけではなく、順番が逆になることもありますし、どこかの段階から始まる人もいるでしょう。喪失からの回復を理解するための枠組みの一つとして参考にしてみてください。

「周囲の人たちは現状に適応して、ちゃんと前を向いてしっかり進めているのに、自分は置いて行かれている気がする」「今更しんどいとは言い出しにくい・・・」「この不

調はCOVID-19禍の影響かもしれないけれどよくわからない・・・」、そんなときには、身近にいる信頼できる人に話をしてみてください。身近な人には話しにくいと感じる時には、ぜひ学生相談室で話をしてみてくださいと思います。

困ったとき、一人ではどうしようもない時、周囲に助けを求めたり、必要な支援を受けたりする力のことを「受援力」や「援助希求力」と呼びます。「受援力」というのは、2011年に起きた東日本大震災をきっかけに注目されるようになりました。また、「援助希求力」というのは臨床心理学の世界では非常に重要視する力であり、精神的健康の維持向上に密接に関わっています。しかしながら、周囲に助けを求めたり、頼ったり、支援を受けたりするための行動をとるのは実はそう簡単なことではありません。例えば、「人に迷惑をかけてはいけない」「自分の問題は自分で解決すべき」といった言葉がこころのどこかに根付いてしまっている人は少なくないでしょう。また、「助けてほしい」と相談した時に、むしろ逆に傷つけられてしまったというような経験を持つ人は、その後SOSを出しづらくなってしまうでしょう。相談しづらいという背景にはその人が抱える理由があるわけですね。

一人で抱え込むのではなく、サポートを求めていくにはそのための心の準備や勇気が必要です。それを踏まえると、実は、相談される側の在り方も非常に大切となります。もしも、周囲の人から相談されたりサポートをお願いされたりした時は、ぜひ真摯に受け止め、しっかりとその人の話を聞いてみてください。聞き方としては、決して茶化したり揶揄したり批判したりしないようにすることが大切です。そして、サポートできそうなところは自分のできる範囲でサポートし（決して無理をする必要はありません）、できそうにない部分は手伝ってもらえそうなしかるべき窓口に繋いでみてください。窓口がわからない場合は学生相談室に相談してもらえればと思います。

自分が悩んでいる時でも、周囲の悩んでいる人にどう対応してあげたらいいのかと困っている時でも、どんなときでも大丈夫です。いつでも学生相談室をご利用ください。お待ちしております。

（臨床心理士 上野 みな子）

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館4階

相談を希望される方は電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、COVID-19感染拡大防止の観点から、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

・開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15

・電話：075-595-4672（建部） / 075-595-4686（上野） ・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

■日本薬学会第142年会において、本学の学生9名が学生優秀発表賞を受賞しました

2022年3月25日（金）～28日（月）にオンラインで開催された「日本薬学会第142年会」において、本学の学生9名が学生優秀発表賞を受賞しました。

【学生優秀発表賞（口頭発表の部）】

受賞者：細胞生物学分野、微生物・感染制御学分野 博士課程1年次生 山田 倫暉

演 題：メロペネム併用により変化する *Acinetobacter baumannii* のコリスチン耐性獲得進化機構

演 者：山田 倫暉、鴨志田 剛、中村 友香、山口 大貴、甲斐 大智、山下 真歩、坂口 萌、澤田 哲平、
神田 奈々、加屋 優希、竹本 訓彦、八尋 錦之助、藤室 雅弘

受賞者：病態生理学分野 博士課程2年次生 松井 透磨

演 題：pH-low insertion peptideを用いた転移予定臓器における組織酸性化の検出

演 者：松井 透磨、戸田 侑紀、中井 亮太、横川 碧、板垣 里奈、細木 誠之、芦原 英司

【学生優秀発表賞（ポスター発表の部）】

受賞者：薬化学分野 4年次生 矢野 恭子

演 題：Electronic Tuning 型ニトロキシル酸化触媒によるイソクロマンの酸化的カップリング反応の検討

演 者：矢野 恭子、浜田 翔平、Elghareeb, E. Elboray、小林 祐輔、川端 猛夫、古田 巧

受賞者：薬品物理化学分野 5年次生 河野 弘樹

演 題：ヒト及びマウス α シヌクレインの凝集・線維形成性に対するN末側変異の影響

演 者：河野 弘樹、鎌田 真央、扇田 隆司、斎藤 博幸

受賞者：薬品分析学分野 博士課程1年次生 田中 亜季

演 題：電気化学発光および水晶振動子マイクロバランス法の信号増幅のための多粒子結合型リボソームの調製

演 者：田中 亜季、小西 敦子、武上 茂彦

受賞者：生化学分野 3年次生 長谷川 七海

演 題：EphA2ノックダウンによる二核細胞の形成

演 者：長谷川 七海、池田 有紀、安武 隆司、片山 桐子、海堀 祐一郎、幸 龍三郎、齊藤 洋平、中山 祐治

受賞者：代謝分析学分野 5年次生 上宇宿 帆香

演 題：老化に伴う金属代謝異常に起因する神経変性疾患の病態発症・進行の分子メカニズムの解明

演 者：上宇宿 帆香、西藤 有希奈、嶋田 佳子、安井 裕之

受賞者：代謝分析学分野 5年次生 葛原 寛子

演 題：潰瘍性大腸炎の年齢に依存した発症頻度と亜鉛動態との関連性評価

演 者：葛原 寛子、嶋田 佳子、西藤 有希奈、安井 裕之

受賞者：臨床腫瘍学分野 5年次生 金田 裕太

演 題：Fluorizolineによるがん細胞増殖抑制効果にはp21Waf1/Cip1誘導が関与する

演 者：金田 裕太、茂山 千愛美、吉井 陸、安藤 孝太、松田 凌平、安藤 翔太、高木 寛子、谷口 恵香、
飯居 宏美、中田 晋

※学年は受賞当時のもので掲載しています

■臨床薬剤疫学分野 村木教授の共同研究がPHARMACY NEWSBREAKに掲載されました

臨床薬剤疫学分野の村木教授と日本薬剤師会の共同研究がPHARMACY NEWSBREAK（2022年3月3日）に掲載されました。

■薬剤学分野 山本教授のインタビューがPHARM TECH JAPANに掲載されました

薬剤学分野 山本教授のインタビューが「PHARM TECH JAPAN（2022年3月16日Web版）」に掲載されました。

■薬理学分野 田中教授のインタビューが毎日新聞に掲載されました

薬理学分野 田中教授のインタビューが毎日新聞（2022年5月24日版）に掲載されました。

掲載記事については本学公式Webサイトよりご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

* 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2022年3月～2022年5月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（五十音順）＞

猪熊 容子	進藤 広彦
大崎 祥子	中森 省吾
栗田 淳子	

＜ 卒業50周年記念募金（昭和47年卒業生）＞

青木加恵子	小西 天二	平井 隆之
イゼリ和代	小花 倫子	冬頭 孝一
岩崎 輝子	近藤 繁生	堀 真理子
上田 平次	財津 美穂	松田 真人
宇野 文夫	佐々木和子	水谷 清泰
大東 幹男	高取 京子	
小川 和男	所 由紀子	

＜ 法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

近田 厚子

（2022年5月31日現在）



KPU NEWS No. 210 2022年7月発行／編集：KPU NEWS編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。